

IV.部門の活動状況

2021年4月～2022年3月

医療安全管理室

課長 宮崎俊子

実施できるように、是正の進捗に合わせてヒヤリングを実施しました。

1. 任務、役割

(1) 院内の医療の質と安全の向上を推進するため、専従の医療安全管理者を置き以下の業務を行います。

- ①医療事故報告書の集約・集計・分析を行い、院内に発信します。
- ②医療事故再発防止において、部門や委員会など横断的に関わり、対策実施と有効性の評価の支援を行います。
- ③前年度の医療安全対策の課題から、次年度の目標設定や具体的手立て、研修計画などを作成し、医療安全委員会や部門リスクマネージャー会議を通して、院内の活動に展開していきます。
- ④毎週実施する医療安全対策評価カンファレンスにて、医療事故や医療安全相談事例の共有や、対策・再発防止策の検討と評価を行います。
- ⑤地域の医療機関の医療安全管理者と連携し、相互の医療安全文化の醸成につなげます。

2. 体制 1 名 (2022年 3 月末日現在)

職種

薬剤師 1 名

3. 活動と実績等

年度初めに設定した目標計画に沿って、安全対策や職員教育を、医療安全委員会や部門リスクマネージャー会議を通して実施しました。地域の医療機関と連携して実施する医療安全の相互評価ラウンドは実施することが出来ませんでした。これまで実施した改善対策の評価を報告し合い交流を行いました。

1 年間に報告された「ひやりはっと事故報告」(インシデント・アクシデント報告)は、2112件ありました。全ての報告書に対し修正処置が実施されその評価と承認が滞りなく行われるように、報告部門への声かけや援助を行いました。

日々のラウンドで事故発生部門への聞き取りや現場の確認、その後の対応などについて確認しました。

発生した医療事故の集約を行い、医療安全対策評価カンファレンスや医療安全委員会へ情報を提供し、対策の必要性や内容について協議しました。

是正処置が必要な事例において、処置が滞ることなく

感染管理室

部責主任 吉田智恵子

1. 任務、役割

感染管理認定看護師の専従者を置き、院内感染防止対策組織の事務局として、院内の感染予防と感染防止対策の推進を援助します。

2. 体制 1 名（2022年 3 月末日現在）

職種

看護師 1 名

3. 活動と実績等

- (1) 院内感染防止対策組織の一員として、委員会・チームの連携に努めました。
- (2) 医療関連感染サーベイランスの結果を感染対策委員会で共有し、必要に応じて現場への介入を行いました。
- (3) 衛生管理者と連携し、職業感染の予防・経過観察が必要な職員に対するフォローを行いました。
- (4) 法人内・外における感染対策に関連する相談の対応、問題解決のための介入・支援を行いました。
- (5) 法人内で発生したアウトブレイクに介入し、現場の支援・教育を行いました。
- (6) 周辺の医療・介護施設や行政と連携し、地域の感染対策に努めました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

演題名

新型コロナウイルス感染症による医療従事者の曝露のリスク

「新型コロナウイルス感染症」 医療従事者の濃厚接触と曝露のリスクの再検証

医療情報管理室

課長 野田邦子

1. 任務、役割

- (1) 医療情報・記録の管理。
- (2) 医療の質向上につながる質指標測定・各種統計作成。
- (3) 診療支援および学術研究活動支援。

以上の3つの業務を主として担いながら、クオリティマネジメントセンター（以下「QM センター」）事務局として、医療の質改善のためのPDCA サイクルが動くための支援機能を果たします。

2. 体制10名

常勤職員 7 名

非常勤職員 3 名 （注1）

（注1）1名は医師アシスト業務として外科系学会が運営するNCD および日本整形外科学会 JOANR への手術症例登録を行っています。

■認定資格

診療情報管理士 6 名

院内がん登録実務中級認定者 1 名

院内がん登録実務初級認定者 3 名

医療クオリティマネージャー

（日本医療機能評価機構） 1 名

3. 概要、特徴、特色

- (1) 過去記録の取り寄せは昨年よりもやや増加しました。引き続き B 型肝炎「特別措置法」、障害年金申請等のための初診時からの記録が必要なケースが一定数発生しています。医療記録の質管理に関しては、QI の測定値（カンファレンス、総合的な初期計画、健康リスクの評価、適切な診療情報提供）としてフィードバックしました。またスキャン時のタイムスタンプ導入に伴い、紙媒体記録の運用実態の調査、各プロセスにおける問題の把握、関係部門の調整等を行い、入院保管ファイルを廃止しました。個人情報適切な取り扱いに関する e ラーニングを実施しました（履修率医師44%、医師以外100%）。

(2) 医療コミュニケーション促進

引き続き新型コロナウイルス感染症流行のため、院内滞在時間短縮のニーズの影響もあり、新規登録はさらに減少しました。対面での「記録の読み方講座」ができないため、マイかるて利用者とのコミュニケー

ションエピソードを職員に募集しましたが、応募がありませんでした。職員への周知が課題です。

(3) QI をはじめ診療データを活用した改善支援

3 回のマネジメントレビューへのインプット情報提供に加え、各現場で活用するため、病棟会議に参加し質目標に関わるデータの提供を行い、改善を支援しました。統計ソフト JMP、SPSS を備え、研究発表に向けた解析の支援を行いました。

(4) 実績 (2021年 1 月～12 月)

過去記録取り寄せ・貸出	115件 (前年比138%)
病歴登録管理	7,573件 (前年比102.4%)
退院時要約管理	7 日以内完成87.2% 14日以内完成98.4%
死因登録	407件 (入院336、外来62、在宅9)
診療情報検索・調査	48件 (依頼28、学会等20)
院内がん登録	840件 (前年比112%)
NCD 登録	895件 (外科745、乳腺143、病理7)
JOANR 登録	1,264件
ニュース発行	3 回 (医療記録関連、QM センター発)
カルテ開示	83件 (申請54、法照会29)
マイかるて新規登録	82件 (前年比51%)

(5) クオリティマネジメントセンター

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 外部研修

- ①がん登録初級実務研修 1 名 (10月)
- ②通信講座 1 名受講・1 名修了

(2) 部門内学習

- ①人権 CafeVol.1～7 (6～11月)
- ②記述統計～適切なグラフの使い方 (12月)
- ③ぐっときた記事紹介 (月 2 回、計24回)

5. 今後の展望・次年度に向けて

クオリティマネジメント (QM) 部としてデータを活用した部門・チーム横断的な質改善活動を促進します。QI、BSC の評価指標の測定を確実にを行い、マネジメントレビューに適切にインプットし有効な PDCA を回します。また求められる診療実績データ、その他質改善 (研究活動を含む) や専門資格取得等のためのデータ抽出・提供、改善活動支援や、医療活動の実績としての統計作成の精度向上と合理化を追求します。

チーム医療の質の証としての記録の改善を進めます。法的適合性・医療安全、効果的で標準的な医療、患者中

心・人権尊重の観点からの警鐘症例に気づき、医療安全管理室と協力して安全施策につなげられるよう力量向上に努めます。

2023年 8 月に予定されている 2 病院化・電子カルテ更新・情報システム構成の大幅な変更に向けて業務の合理化を進めます。紙媒体帳票・記録の運用をできる限り削減し、退院までに医療記録の完成度を高める業務へと再構築し病院全体の記録および記録関連業務のスリム化と質改善を進めます。

患者と医療者のコミュニケーション促進のためのツールであるマイかるての普及を再開し、記録の質向上・患者と職員の満足度アップにつなげるとりくみを継続します。利用者のニーズに応えられる質情報の公開を模索します。

看護部

看護部長 小野寺由美子

2021年度の目標と活動報告

○看護師の育成課題

4月には新入看護職員29名を迎えました。コロナ禍で臨地実習体験の少ない背景を考慮し、オンライン等も活用しながら教育プログラムに工夫して対応しました。看護主任会議内で看護体制チームを作り相互支援をしながら看護部全体でPNS定着に向けて取り組み、すべての病棟でPNS導入となりました。病院のリニューアルのに向けた看護管理後継者の育成は看護部の課題であり、そのための計画的な教育機会が重要と考え、看護副部長や部門看護長の認定看護管理者コースの受講を推進し、その成果を看護長会議等で継続的に学習しました。また、後継者確保の一環として看護職を目指している中高生に向けて、8月に初めてオンラインでの看護体験を実施し、参加者からの高い満足度を得ました。た。

○「民医連のめざす看護」の視点を日常的に活用し、 個を尊重する能力を高め、事例を大切に 看護実践に取り組む。

「民医連の看護とその基本となるもの」に基づいた学習の継続で、職責や中堅職員がチューターとなりキャリア1研修の質にも反映されてきた実感です。今後は日常的に活用するツールに進化させていきます。県連で次年度は「民医連の看護とその基本となるもの」を柱とした本出版の予定です。

各部門で人権caféの学習を通じて「基本的人権」について学び、コロナ禍で現れている社会保障の問題点について、議論しました。人権Caféの学びを活かし多様性を受入れ、「個」を尊重する能力を高め、改善課題の検討とリニューアル後の運営改善につなげていきます。

○病院リニューアルを成功させるために

リニューアルに向けた様々な課題にワーキンググループを中心に取り組む中で見えてきた課題がありました。まず2つの病院の外来機能の再編です（※図表1）。多職種での検討を重ねながら、再編を見据え先行的なローテーションと業務改善に着手しました。また急性期機能の強化を支える体制については、救急、集中ケア領域の認定看護師課程を2名が受講しました。HCU8床運用に

向けて救急医、外科医、麻酔科医とともに周術期看護やHCU看護の議論を進めてきています。看護師が主導する院内迅速対応チームの発足に向けて準備を開始します。

図表 1

現在：外来看護科Ⅰ→新：埼玉協同病院の外来へ

- ① ER/処置室
- ② 検査（内視鏡・放射線・アンギオ）
- ③ 整形外科（再生外来、救急受入）
- ④ 精神科、精神科デイ（一部専門外来）

現在：外来看護科Ⅱ→新病院のユニバーサル外来へ

- ① 専門外来（慢性期）、当日内科外来、小児科、外科、整形外科（一般）
- ② 健康増進センター
- ③ 泌尿器科、皮膚科、耳鼻科、眼科

○新型コロナウイルス感染対応

昨年度に引き続き、COVID-19への対応は続けました。2021年度の1年は、7月にデルタ株（第5波）、1月にオミクロン株（第6波）の感染拡大がありました。それぞれの特徴に合わせて、看護の専門性を発揮した対応に部署横断的に一丸となって取り組みました。発熱外来では、看護によるトリアージ体制を強化し、病院の環境を守りながら100名を超える受診者に対応しました。第5波は肺炎の併発率が高かったため腹臥位療法のパンフレットを説明、配布しました。また、レストランを待機場所にしたり、発熱外来の受付システムや入力テンプレートの変更したりなどを安全かつ効率的な診療を担保するための業務改善が進化しました。ワクチン接種においては、標準的なマニュアルを作成、周知して筋肉注射および接種後の副反応への速やかな対応を看護管理、全部門の看護師で協働して取り組み、重篤な事故の発生はなく、地域からの評判を得ることができました。



COVID-19感染の長期化で職員のメンタルヘルス対策の必要性が高まっています。看護部では、昨年度のC5病棟でのメンタルヘルス対策を水平展開し、保健師部会メンバーが中心となって部門内でのメンタルヘルス活動を推進しました。罹患後症状が遷延する職員もいるため、今後も継続的に取り組んでいきたいと思っています。

外来看護科 I

看護長 吉田暁子

1. 任務、役割

内科急患・ER・整形外科・外科・眼科・耳鼻科・皮膚科・泌尿器科・内視鏡・放射線検査・自己血採血外来・化学療法室を担っています。

また、新型コロナウイルス感染症流行の2年目となった2021年度は、第5波・第6波で患者数・陽性者数が増大し、発熱外来の診療方法や待合室の工夫、内服薬の受け渡しを改善しながら対応しました。

感染対策を行い、外来診療がスムーズにいくよう、各診療科で連携しています。

2. 体制 (2022年3月末日現在)

職種		
看護師	44名	
助産師	1名	小児救急認定
准看護師	9名	
看護助手	5名	
視能訓練士	3名	

3. 活動と実績等

- ①新型コロナウイルス感染症の流行により、午前中は発熱外来・午後は保健所の依頼を受ける帰国者・接触者外来を継続して行いました。
- ②救急では前年度とよりも多い台数の救急車を受け入れ、入院へつなげました。
- ②内視鏡やレントゲン関係の、緊急検査に対応しています。
- ③各診療科では、感染対策を実施しながら、新型コロナウイルス感染症流行時も通常の診療を行いました。

4. 総括

- ① ERと処置室の業務の改善を行うことで患者の待機時間を短縮し、入院や帰宅までの流れが円滑に進むような仕組み作りしました。
- ②発熱トリアージ加算をもれなく取ることができるよう、看護師の育成に取り組みしました。
- ③災害支援の教育を受けた看護師を中心に、部門内でトリアージ訓練を実施し、災害時の対応できるようにしました。
- ④内科急患でのがん告知に立ち会い、患者・家族の思

いを聞き取り、他部署との連携し患者支援を行いました。

- ⑤新型コロナウイルス感染症を含め、多くの感染症患者へ対応し、感染対策方法や検体採取方法の改善に取り組みました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

演題名

効果的な内視鏡経鼻麻酔方法の検討

コロナ禍における救急分野のスタッフ育成や地域との関わり

外来看護科 II

看護長 栢森恵子

1. 任務、役割

専門外来(慢性疾患)・予約内科と、健康増進センター、精神科デイケアを担っています。専門外来・予約内科では、慢性期の在宅療養指導から終末期の支援等を行っています。健康増進センターでは、健診受診者への保健指導や、健診後のフォロー等を行っています。精神科デイケアでは、利用者の社会生活をサポートするプログラムや環境づくりと、生活指導、服薬指導、受診支援等を行っています。

2. 体制25名(2022年3月末日現在)

職種

保健師	15	(うち助産師2名)
看護師	7	
准看護師	1	

3. 活動内容と実績

(1) 専門外来・予約内科における看護活動

- ・消化器・呼吸器・糖尿病の診療科別で逆紹介の運用方法を確立し逆紹介に取り組みました。
- ・専門外来に来院する患者への健康情報の提供のため、待合室にラックを設置し、健康増進センターだよりや認知症予防の資料などを持ち帰っていただけるようにしました。
- ・毎週気になる患者カンファレンスや緩和カンファレンスを実施し、患者の情報共有やフォローにつなげています。

(2) 健康増進センターにおける保健予防活動

- ・後期高齢者健診におけるフレイル予防の介入を継続しました。前年度に介入した方を抽出し、今年度の問診時に比較して必要な方へ新たなパンフレットを配布し介入しました。
- ・特定保健指導では、毎月の担当者会議で気になる利用者を挙げ、対応を検討して継続できるよう支援しました。

(3) 精神科デイケアにおける看護活動

- ・デイケア利用中の感染予防行動を自宅に帰ってから実践できるよう、前年度に引き続き、集団感染予防行動の習慣化に務めました。加えて、クラブ活動や学習会等、少人数にわかれるプログラムを導入す

るなど、密を回避しながら各自の利用目的に添えるよう、支援しました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

演題名
後期高齢者健診フレイル予防の取り組み
保健師部会の立ち上げと活動報告
コロナ禍での活動制限下における医療生協組合員の健康状態・困りごとの聞き取り調査を実施して（共同研究）

C2病棟看護科

看護長 武 智子

1. 任務、役割

C2病棟は消化器内科疾患と呼吸器内科の患者様を中心に医療の提供を行なっています。食道から大腸、膵胆肝系の侵襲の高い検査や膵石治療にも取り組んでいます。悪性疾患などの患者様も多く、化学療法に移行する患者様、また緩和ケアへ繋ぐ役割も担い、認定看護師の協力を得ながら、疼痛緩和やQOLの向上、患者様・ご家族の方の精神的援助が出来るように日々努めています。また、呼吸器疾患の患者様には酸素の評価を行い在宅酸素、在宅呼吸器を導入し在宅への退院を支援しています。

また、独居高齢者や老老介護への介入も増えているため、入院時から多職種でカンファレンスを行い退院支援に取り組んでいます。

2. 体制37名

職種	
保健師	6名
看護師	31名
病床数	60床

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

- ①患者や看護師にとって安心・安全な医療を提供します。
- ②消化器疾患、呼吸器疾患を中心とした治療・看護を統一して行い、スムーズかつ安全な医療と看護を提供します。
- ③ HPH に取り組み、ヘルスプロモーション活動の推進をおこないます。

(2) 実績

新入院患者月平均人数	125.7人
入院延べ患者数	1,379人
平均在院日数	10.2日
占床率（60床換算）	76.21%

4. 今後の展望

1. 各診療科における検査・治療をより多くの患者様に提供できるよう職員の知識と対応力の向上を目指します。
2. がん患者ががんと診断されたときから患者様の意向に

沿いながら緩和ケアが受けられるように支援します。

3. 各診療科のクリニカルパスの運用により、適宜、見直し修正をおこないながら標準的医療を維持し、患者様にわかりやすい説明を行います。
4. 地域へ退院される患者様に対し、情報を提供し、継続した支援ができるようにします。

C3病棟看護科(産婦人科)

看護長 小峰将子

1. 任務、役割

病床数40床。

1983年の産婦人科開局以来、『地域が産み・育てる』をスローガンに地域に根ざした活動为目标に掲げ、活動を展開してきました。

産婦人科外来・病棟・小児科との連携で、妊娠・出産・育児や婦人科手術前後の期間を含め、女性とその家族の一生を一貫してサポートしています。また、地域との連携も密に行っているため、地域のサポートも安心して受けていただくことができます。

今後も安心して地域で過ごすことができるよう切れ目ない支援を継続していきます。

2. 体制35名（2022年3月末日現在）

職種

助産師	30名	うち保健師有資格者 9名
看護師	3名	
准看護師	1名	
看護サポート	1名	

資格	人数
日本助産評価機構認定 アドバンス助産師	3名
NCPR（一次Bまたは専門A）	26名
NCPR 専門コースインストラクター	1名
ALSO プロバイダー	3名
J-CIMELS	1名
IBCLC	1名
ICLS	5名
災害支援ナース	1名

3. 活動と実績等

(1) 実績

新規入院患者数	995人
転入患者	41人
入院延べ患者数	6,167人
1日あたり患者数	16.9人
平均在院日数	6.9日
平均占床率	53.7%
分娩件数	378件
帝王切開	81件
婦人科手術件数	281件
他科受け入れ件数	271件

(2) 総括

- ①産前教育のうぶ声学校 1 回コースを継続して対面で実施しました。
- ②感染防止対策を徹底し、2021年12月15日より、出産直後の面会のみ再開することができました。立ち会いができない分、スタッフが寄り添いながら、分娩を継続することができました。
- ③情勢に合わせ、感染防止対策を徹底し、助産学校 1 校、看護学校 3 校の実習受け入れを行い、医療従事者の人材育成に貢献することができました。
- ④ EMR を中心とした内科、整形外科の術前後、眼科、耳鼻科、ペインなどの他科受け入れを継続して行い、病床運営に貢献することができました。
- ⑤ HPV ワクチン接種対象者に「いのちの授業」を開始し、ヘルスプロモーション活動を実施しました。
- ⑥産婦人科外来にて、市の子宮がん・乳がん検診への推進を継続し、検診受診者数増加に貢献することができました。
- ⑦ COVID-19対応産科リエゾンシステムにより、当院管理の陽性妊婦フォローを確実に実施しました。
- ⑧周産期システムを導入し、長年紙で運用されていた妊娠・分娩経過を電子管理とし、今後は統計管理などに活かしていく予定です。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

埼玉県看護協会 助産師職能委員会に参加

C3病棟看護科(小児科)

主任 木賊敦子

1. 任務、役割

C3小児科は、小児科外来と病棟を担当しています。新生児から中学3年生までの小児内科疾患の患者様を中心に医療の提供を行っています。病棟では急性期疾患の他、食物経口負荷試験などの検査入院も行っています。また、小児の整形外科や耳鼻科、消化器外科（虫垂炎、鼠径ヘルニア）の手術患者様の受け入れや、成人の SAS 入院 EMR などの検査入院、耳鼻科、眼科、術前の血糖コントロール目的での受け入れも継続しています。

小児科では、地域に選ばれる小児科を目指し、妊娠期から継続した子育て支援が出来るように日々努めています。

2. 体制 13名

職種

看護師	12名（うち保健師有資格者 1 名）
助産師	1 名（保健師有資格）
病棟保育士	1 名

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

①地域に選ばれる小児科を目指し、慢性疾患、長期に療養を必要とする患者様のフォローに力を入れてきました。また、今年度も継続して、内科の検査入院（EMR）、日帰りの胃瘻交換や成人の耳鼻科の手術患者様や点滴加療の患者様、術前の血糖コントロール入院、眼科も積極的に受け入れ占床率は前年度を上回る結果となっています。

②今年度も HPH・SDH の視点で地域医療活動を行い、チーム医療の質の向上にも努めました。小児虐待対策チームの活動を継続し、地域連携を大切に、地域との情報共有を中心に行ってきました。

子育て支援では、今年度も COVID-19の影響で健診での集団教育、『命の授業』や『喘息教室』など育児支援が行えなくなりましたが、SNS を利用した地域利用者への働きかけも積極的に行ってきました。小児科医師が中心となり『小児科公式 LINE』を開設後、子育て支援チームのスタッフ中心となり、子育て中に役立つ情報を配信することができました。また、子育て支援の一貫として Zoom

を使用した『巣ごもりカフェ』なども開催できており、地域の方々との交流も行っています。

さらに、小児科ではひらがなの読み書きが苦手なお子さんへの『学習支援』も行っており、毎月継続した支援が行えています。

- ③今年度から外来通院で重症心身障害児に対しての、リハビリも開始しており、他職種と連携を図りながら、親子が地域で暮らしていけるように関わることができています。

(2) 実績

①新規入院患者数	624人
②入院延べ人数	1,502人
③平均在院日数	3.4日
④平均占床率	51.6%
⑤成人患者	366人
⑥手術件数	84件

4. 教育、研修、研究活動

(1) 学術・研究等の発表

演題名

小児用術前プレパレーションについての報告

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) コロナ禍でも継続して、育児支援が出来る方法を検討し、切れ目のない支援が出来るように努めていきます。
- (2) 産科と協力して産後ケア事業を充実させ、親子のフォローができるよう努めていきます。
- (3) 紹介患者様や救急依頼、他科入院の受け入れを積極的に行い、病床利用率増加に努めていきます。
- (4) 多職種と連携し、質の高い医療を提供していきます。
- (5) 地域の重症心身障害児のリフレッシュ入院を行うためにも、次年度は訪問看護虹が行っているデイケアの見学も行っていきます。

C4病棟看護科

看護長 英岡和香子

1. 任務、役割

癌から生じる痛みをはじめとする体のつらい症状や、患者様と御家族が病気とともに生きることの心のつらさが和らぐよう、多職種チームで連携し支援しています。残された時間をその人らしく過ごしたい場所で過ごせるように、症状が軽快されたら在宅調整の支援を行ったり、患者様とご家族の要望を叶えられるよう支援を行っています。

2. 体制 18名

職種

看護師	17名
緩和ケア認定看護師	1名

3. 概要、特徴、特色

(1) 実績

新入院患者数	282人
転入院患者数	78人
退院患者数	152人
死亡退院数	219人
在宅復帰率	33.6%
即日入院	159人
平均在院日数	16.2日
平均占床率	62.79%

(2) 特徴

地域から求められる役割として、緊急入院を積極的に受け入れてきました。地域連携を円滑にするために、地域連携カンファレンスを実施しつながりを深めています。今年度は内科患者様の受け入れも行いました。

(3) 特色

2021年度より緩和ケア医が常勤として着任しました。より専門性のある緩和ケアを目指していきたいと考えています。昨年度からリハビリスタッフが常駐されるようになりました。患者様の日常に寄り添い、その人らしさを引き出す支援に努めます。病棟ではカンファレンスを重ねながら患者様にとって必要なケアを多職種とともに日々考えています。コロナ禍の中で患者様やご家族にとっての最善を常に考え続けケアにあたっています。

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) グリーフケアの充実（遺族会・遺族へのアンケートの調査）を図ります。
- (2) 在宅調整力を高めるため退院時訪問の充実を図ります。
- (3) 充実した緩和ケアの提供のため、病棟スタッフのスキル UP を図ります。

C5病棟看護科

看護長 福田友美

1. 任務、役割

2020年8月、新型コロナウイルス感染症患者の増加を受けて、感染症病棟となりました。2021年度は、第4波から第6波の中、フェーズに応じ、5床から15床の受入病床となりました。軽症～中等症患者を受け入れ、救急搬入患者、発熱外来からの陽性者、埼玉県からの要請を受け、市内外からの入院要請にも迅速に対応できるよう努めています。

2. 体制 20名（2022年3月末日現在）

職種

保健師	4名
看護師	16名
看護助手	2-3名

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ病棟として、軽症～中等量患者の対応を行いました。

第4波：高齢者施設や院内発生があり、高齢者が多く、肺炎を併発、HOT導入やお看取り事例が続きました。年齢層が青年期から老年期と幅が広く、変異株報告等もあり、基本的に個室になるよう病床整備を行いました。

第5波：ほぼ満床、オーバーベッドの中、重症化する患者の転院対応、転院ができずに、高流量酸素療法、腹臥位療法で乗り切りました。抗体カクテル療法のため、3泊4日入院対応も開始しました。COVID-19、抗体療法のクリニカルパスを整備し運用を開始しました。7月～9月下旬100名を超える入院を受け入れました。

第6波：オミクロン株が主流となる中、入退院基準の変更や、職員、家族の感染により、就労制限が相次ぐ中、クラスターを発生させずに継続しています。小児、妊産婦の入院相談が増えたため、当科で入院基準を定めました。

現在では、入院患者は、16歳～99歳と幅広く、外科、整形外科疾患術後、産後、透析、がん化学療法、骨折など、基礎疾患の管理、看護も必要となっています。患者ケアとしては、腹臥位療法、認知症・せん妄予防、外国人への対応、看取りと緩和ケア、意思決定支援などがあります。家族が面会できず、電話での現状報告やオンラ

イン面会を活用しています。退院後に電話かけをして、退院後の相談、生活の様子等をお聞きしています。路上生活者、単身、独居老人、老老介護など、退院後の生活支援も必要となり、MSW、リハビリ介入と多職種連携も実践しています。国の定める基準に準じて、感染予防対策、業務手順を見直しています。

(2) 実績

①2021年1月～12月

新入院患者数	225人
退院患者数	231人

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

埼玉民医連 看護学会

「COVID-19患者における非挿管下での腹臥位療法の取り組み」

「COVID-19病棟における保健師の取り組み—患者と職員
のメンタルヘルスに着目して—」

埼玉協同病院 第4回 医療活動交流集会

「COVID-19感染症専門病棟としての取り組み」

「看護実践報告—COVID-19患者とともに闘った1年を振り返って—」

5. 今後の展望・次年度に向けて

- ①ウイルス、感染症看護の知識、技術の向上と患者ケア、チーム医療の構築、対応力の向上を図ります。
- ②働く職員の精神的ストレスを表出し、感染症と精神的負担に関する正しい知識をもって仕事を続けられるようにします。
- ③新病院リニューアルの準備、一般病棟へ変換することも視野に病棟運営を継続していきます。

D2病棟看護科

看護長 浅香眞由美

1. 任務、役割

病床数57床です。変形性関節症や脊椎、骨折や外傷などの手術や急性期の治療・処置を必要とする患者様の受け入れをしています。また、周手術期看護を中心とした病棟業務を行っています。

2. 体制34名

職種	
保健師	0人
看護師	31人
看護助手	3人

3. 活動と実績等

新入院患者数	平均82.3人
延べ入院患者数	15,888人
平均在院日数	17.4日
病床利用率	81.1%
手術件数	918件
死亡数	0件

- ①平均在院日数17.4日、月平均入院数76.5人となりました。多職種連携で退院を促進し、在院日数の短縮に努め、多くの新患も受け入れました。
- ②電子パスの新規作成と見直しを実施しました。
- ③ディンクルを活用し褥瘡改善率の改善に努力しました。
マットの学習会をしてマットの変更を行い、セーフマスターへのリスク評価入力などを徹底しました。
- ④整形外科での入院患者の多い疾患をもとにチームで活動しています。学習会企画やパス見直し、手順書の見直しを行いました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 整形外科病棟の周手術期看護のレベルアップを図ります。
- (2) 多職種で入院時から関わりを持ち、患者様の意向に沿った退院支援を行います。
- (3) さらなる在院日数の短縮と入院数の確保を行います。

D3病棟看護科

看護長 大西美希

1. 任務、役割

- (1) 病棟数は55床です。
- (2) 消化器悪性疾患（消化器がん・呼吸器がん・乳がん等）や良性疾患（胆石・虫垂炎・腸閉塞・単径ヘルニア等）の手術療法を受ける患者様の看護に取り組んでいます。
- (3) 化学療法室と連携して術前・術後の化学療法を受ける患者様を受け入れています。
- (4) 整形外科疾患（上肢下肢の骨折・大腿骨頸部骨折・脊椎疾患）の手術療法を受ける患者様の看護に取り組んでいます。

2. 体制 35名

職種

保健師	4名
看護師	30名
認定看護師	2名（がん化学療法、癌性疼痛看護）
看護助手	3名

3. 概要、特徴、特色

(1) 実績

入院患者数	1,508人	(115.7人/月)
入院延人数	14,111人	
平均在院日数	10.5日	
病床利用率（占床率）	77.9%	
手術件数	916件	(緊急146件)
※外科系腹腔鏡下手術の割合：51.17%		

(2) 総括

- ①医師やメディカルスタッフと協力して入院患者の医療・看護に取り組みました。
- ②がん医療においては、がん関連認定看護師を中心に、外科、乳腺外科のキャンサーボードを定期開催し、多職種での情報交換・共有により切れ目のなく取り組みました。
- ③整形外科疾患の患者を昨年度より多く受け入れ、周手術期・退院指導を含めた医療・看護に取り組みました。
(整形外科入院数228件) さらに、積極的に緊急手術の受け入れをおこなってきました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 各種参加

- 2月 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会
10月 第59回日本癌治療学会学術集会

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 高難易度の手術に対応できる周術期看護のスキルアップを目指します。
- (2) 多職種と協働し、術前から退院に向けた患者教育の充実を目指します。
- (3) クリニカルパスの評価・修正を進め、適切な治療・看護を提供します。

D4病棟看護科

看護長 佐藤笑美子

1. 任務、役割

D4病棟はHCU4床と、循環器疾患・糖尿病・腎臓病・脳梗塞や脳出血などの血管障害の患者様が入院されている一般病床46床の病棟です。多職種で患者様に関わる業務体制を整え、質の向上をめざしています。また、医師の初期研修の場として、医師・看護師がともに学び合う環境作りを目標に活動しています。

2. 体制40名（2022年3月末日現在）

職種

保健師	6名
看護師	39名 非常勤含む

3. 活動と実績等

HCU病棟として、消化管穿孔など外科や骨折などの整形外科の術後で重症管理が必要な患者様の受け入れを行い、術後管理が適切に行えるように入退室基準に沿って運営しています。重症治療管理のほか、身体的ケア・精神的ケア、家族ケアの実施、早期のリハビリ介入をし、身寄りのない患者様の治療方針決定を多職種で行い、HCU退出後の退院支援につなげました。

また、一般病床では、患者様・ご家族の意向を伺いながら、病気や生活とどのように向き合うのか、最期はどこで迎えるかを考えていただけるように、また、感染対策のなかでの面会禁止で会うことのできない家族が病前・病中・病後の患者様をイメージできるように入院時から関わりを持って支援を行いました。

慢性疾患を抱えた患者様には、生活状況を確認し、病気を理解したうえで日常生活を送ることができるように疾患別パンフレットを用いて指導を行いました。

実績（月平均）

入院患者数	95.9件 / 月
平均在院日数（一般）	10.7日 / 月
病床利用率（一般）	93.5% / 月
ペースメーカー移植術	11件
心臓カテーテル検査	151件
内シャント造設術	44件
経皮的シャント拡張術・血栓除去術	108件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

演題名

医療依存度の高い重症心身症患者の入院から退院支援を振り返って

脳卒中チームの発足と再発予防へのアプローチ～急性期治療開始からの患者指導～

D5病棟看護科

看護長 大森有紀

1. 任務、役割

脳血管疾患、運動器疾患、急性期治療後の廃用症候群の患者を中心に、回復期リハビリテーションを提供し、障害受容から地域社会復帰に向けた支援を行っています。

2. 体制

職種	
医師	2名
保健師	2名
看護師	18名
介護福祉士	10名
事務総合職	1名

※上記以外

社会福祉士2名、薬剤師1名、管理栄養士2名
理学療法士12名、作業療法士11名
言語聴覚士8名(兼務)、歯科衛生士2名(兼務)

3. 概要、特徴、特色

チーム医療の展開により、患者、家族が安心して住み慣れた環境に戻れるよう、退院支援を行い、在宅復帰率が高い実績があります。

(1) 実績

入院患者数	292人
退院転出数	311人
平均在院日数	53.3日
病床稼働率	90.0%
在宅復帰率	86.4%
重症患者回復率	72.8%
アウトカム評価(実績指数)	51.13

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

特記なし

5. 今後の展望・次年度に向けて

動画撮影を用いた病状説明、感染対策を徹底した介護指導など、コロナ禍でもできることを少しずつ増やしてきました。退院困難な方も自宅訪問を行い、地域との連携強化し退院を目指しました。今年度はリハビリ以外の時間を使ったアクティビティを実施し、24時間リハビリができるよう多職種で工夫をしていきたいと思ひます。

透析看護科

看護長 砂川千恵子

1. 任務、役割

透析室では入院透析と外来維持透析を行なっています。入院は糖尿病外来や腎外来からの予定導入、症状悪化による緊急透析、他施設の維持患者で入院が必要な場合の透析に対応しています。維持患者には合併症予防のため、食事・水分管理や日常生活に対しての患者指導を行なっています。また、シャント不全のシャント拡張術も対応しています。

2. 体制17名(2022年3月末日現在)

職種	
看護師	11名
准看護師	1名
臨床工学士	4名
事務総合職	1名

3. 活動と実績等

(1) 特徴

- ①急性期および透析導入病院の役割として、緊急透析患者の対応、糖尿病外来・腎外来と連携し、透析導入患者への生活指導を実践しています。
- ②エコー下での穿刺の技術の習得や、カテーテル留置患者へのケアなど、安全で安心な透析治療を提供しています。
- ③透析医療チームを立ち上げ、医師・看護師・臨床工学士・栄養士・薬剤師・事務など多職種で情報共有や年間目標を立案し、チームで取り組んでいます。

(2) 実績

年間透析件数	10,841件
新規透析導入数	40人
外来透析管理患者数延べ	759人
入院透析管理患者数延べ	339人
シャント拡張術	130件
内シャント造設術	56件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

演題名	
糖尿病腎症の独居男性に対し、SDHでの視点から	

の関わりを持って

維持透析患者の地域連携を考える

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 透析看護外来で糖尿病や慢性腎臓病の患者・家族への指導を行い、透析導入病院としての役割を発揮していきます。
- (2) 臨床工学技師や栄養士など多職種と連携し、維持透析患者への生活指導を実施し、安定した維持透析治療や看護を提供していきます。
- (3) シャントの管理や、穿刺（エコー下穿刺含む）の技術の向上を目指し、患者への苦痛の軽減に努めます。
- (4) 災害発生時や緊急時に対応できるよう環境整備や防災訓練を実施していきます。

手術看護科

看護長 熊木直美

1. 任務、役割

手術室では周術期における患者の安全を守り、手術が円滑に遂行できるよう、正しい知識を身に付け、常に最新の技術を提供しています。

2. 体制35名（2022年3月末日現在）

職種

手術看護実践指導看護師	1名
保健師	2名
看護師	25名
准看護師	1名
看護助手	5名
事務総合職	1名

3. 活動と実績等

今年度もコロナ禍で面会ができない中、手術患者様やご家族が少しでも安心して手術に望めるよう寄り添った看護を行ってきました。手術後は一人でも多くのベッドサイドに訪問できるよう心がけ、訪問率90%以上を維持してきました。

また、週1回のペイン外来は開始当初の2倍の受診数となり、来年度からは週2回の外来体制に拡大されます。

(1) 手術実績（前年比）

各科手術件数	2,534件（93.7%）
	外科694件、整形外科1,338件、産婦人科288件、透析科55件、耳鼻咽喉科67件、眼科83件
全身麻酔手術	1,980件（96.5%）
術前訪問件数	1,880件 / 外来手術は対象外
術中訪問件数	173件 / 3時間以上の外科手術対象
術後訪問件数	2,154件

(2) ペイン外来実績

年度	2017	2018	2019	2020	2021
外来件数	717	951	958	1,005	1,395

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

〈埼玉民医連看護学会〉

看護師 高林由佳

「術前の禁煙指導における他部門連携の実地」

看護師 佐々木鵬生

「手術室のチームプリセプター制指導の導入における評価と効果」

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) スタッフ育成 (2) 周術期看護の連携強化
- (3) ペイン外来の拡充 (4) 手術支援システム導入準備

看護育成課

看護長 四方田寿子

1. 任務、役割

看護育成課の役割は、人材の確保と育成、キャリアアップ支援と考えています。

そして、私たちのビジョンは、民医連の看護の継承する事と、一人ひとりの看護観を実現する事を支援する事です。

2. 体制 3 名

職種	
助産師	1 名
看護師	2 名

3. 活動内容と実績

(1) キャリア 1

キャリアアップ委員会のもと、看護教育センターとしての機能を有し、教育担当者の育成支援と研修要項に沿って北部・西部サポートセンターと連携しながら看護職員の育成を支援しています。

① 卒後 1 年目

学生時代の実習環境を鑑み研修プログラムを一部修正し、看護支援システム（ナーシングシステム）を活用しながら OJT を組み合わせた研修をすすめました。

② 卒後 2・3 年目

指導者共に事前学習に力を入れ、事例を通していのちの章典、保健予防活動、健康の社会的決定要因について学ぶ事で成長の機会につながりました。

(2) 中途入職看護職への支援

入職後の定着と不安軽減を目的に 1 ヶ月面接までの手順が定着しました。

(3) 看護学生・高校生への関わり

① 看護学生実習受け入れ状況

コロナ禍のため実習は半日単位で感染対策を重視しながら 7 校・実人数 199 名を受け入れました。

② 高校生企画（看護学生委員会と協賛）

高等学校へ出前授業を 2 回実施し、看護学校の授業内容・看護業務について説明することで、雰囲気を知りきっかけになり将来の選択を考える事につながりました。

③ (オンライン) インターンシップ 11 回・看護体験 1 回・模擬面接 2 回、看護学校入学までの応援メッセージ送付

と就職先選択までの支援を行いました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

演題名

中途入職者の育成をめざした教育委員センターの取り組み

看護サポート

主任 高田千春

1. 任務、役割

看護業務支援として安全で快適な療養環境整備を看護師指導のもと、日々の業務を遂行します。また看護部門のメンバーとして、年間計画に基づき、職員の力量向上や能力開発に努めています。

2. 体制46名（2022年3月末日現在）

職種

看護助手	8	常勤
看護助手	38	非常勤

3. 活動と実績等

- ・医療安全学習（車椅子移乗移動介・食事介助・口腔ケア）
- ・感染対策学習（手指衛生と PPE の着脱）
- ・BLS 一学習会
- ・感染症の基礎知識（インフルエンザ・新型コロナウィルス）
- ・生活習慣病学習会

薬剤科

部責主任 吉田卓司

1. 任務、役割

- ・今年 は 外来救急薬剤師業務を開始しました。引き続き術前外来、手術室での麻薬、医薬品の使用、払い出し、在庫管理の業務に関わってきました。その他に、さらなるカルテの記録の改善、危険薬や注意を要する薬剤の安全管理の向上の取り組みを進めてきました。
- ・引き続きがんセンターボードに分担して参加し、レジメンの検討、作成、個々の投与設計などに積極的に関わり、がん患者指導管理料への算定に必要な業務本格的に進められ、的確で安全ながん診療に参画してきました。
- ・ICT、がん化学療法、NST、緩和、各診療科チームなどにも積極的に関与、病棟会議、病棟朝会への参加を進め、チームによる医療の質向上に努めてきました。

2. 体制 29名

職種

薬剤師	28名 (うち、非常勤1名)
薬剤助手	2名
事務スタッフ	1名

■資格取得

認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定薬剤師、外来がん治療認定薬剤師、※栄養サポートチーム専門療法士、抗菌化学療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師、糖尿病療養指導士、スポーツファーマシスト、診療情報管理士、埼玉県肝炎コーディネーター

3. 概要、特徴、特色

①採用医薬品数 1,441

新規採用医薬品数 93品目

医薬品廃棄率 0.232% (2020年は0.186%)

②外来院内処方箋枚数 13,242枚 (2020年は2,852枚)

院外発行率 平均91.3% (2020年は98.0%)

入院処方箋枚数 50,771枚

注射処方箋総数 (Rp) 285,742件

注射セット件数 (Rp) 226,735件

注射セット率 (Rp) 79.35%

③薬剤管理指導業務 他

1) 入院服薬指導実人数 7,545人

2) 退院時薬剤管理指導数 3,968人

3) 病棟薬剤業務実施加算 14,524件

4) 薬剤総合評価調整加算 100点 292件、150点 133件

5) 退院時薬剤情報連携加算307件

④無菌調剤件数

1) TPN 無菌調製件数 356件

2) 外来化学療法件数 1,131件

3) 入院化学療法件数 203件

4) 無菌製剤処理 (細胞毒性) 件数 1,037件

5) 携帯型ディスポーザブル混注件数 27件

6) 院内製剤 32種に対応

⑤がん患者指導管理料ハ 1,291件

がん化学療法レジメン管理数203件

(新規作成17件 改定25件 削除0件)

⑥TDM 77件

⑦DI業務

1) 質疑応答 107件

2) DI ニュース 13回発行 (No.621~No.632)

3) 一般使用成績調査 4 副作用詳細調査 5例

⑧安全管理業務

1) 副作用報告 全日本民医連 34件、厚労省 (PMDA) 34件

2) 医薬品副作用被害救済制度 申請5件

予防接種被害救済制度 申請5件

3) プレアボイド報告 525件、日本病院薬剤師会へ報告2件

4) 中毒対応件数 30件

(2) 薬事委員会

抗菌薬適正使用支援チーム

4. 教育、研修、研究活動

- ・埼玉民医連学術運動活動報告

なし

- ・学会参加

第69回日本化学療法学会5/7-5/9

第14回日本緩和医療薬学会5/13-5/16

第24回日本臨床救急医学学会6/10-6/12

第7回日本医薬品安全性学会7/24-7/25

第36回日本臨床栄養代謝学会7/21-7/22

第51回日本病院薬剤師会 関東ブロック学術大会8/28-8/29

第22回日本医療情報学会学術大会11/19-11/21

検査科

科長 金泉恵美子

1. 任務、役割

- (1) 迅速に正しい検査データを提供して早期治療へ繋がるように努めます。
- (2) 適正な検査が行えるよう院内への情報提供をするとともに安全な検査が実施されるよう働きかけます。

2. 体制 29名（2022年3月末日現在）

職種

臨床検査技師	29名（非常勤6名含む）
〈専門資格〉	
細胞検査士	3名
超音波検査士（消化器）	4名
超音波検査士（表在）	3名
超音波検査士（心臓）	2名
認定血液検査技師	2名
認定病理検査技師	1名

3. 活動と実績等

- (1) 新型コロナウイルス感染症に対する検査体制強化として、抗原定量検査機器ルミパルス G1200を2台稼動にしました。これにより安定した検査提供が行えています。
- (2) 生理検査では新型コロナウィルス感染防止対策として標準予防策の徹底だけでなく、空気清浄器を設置して換気をおこない患者および職員の安全にも配慮しました。
- (3) ALP、LD 測定法を国際臨床化学連合（IFCC）法へ変更しました。
- (4) 実績

項目	件数
新型コロナ抗原（定量）	4,946件
SARS-CoV-2 PCR	5,269件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

臨地実習指導者講習会修了

放射線画像診断科

放射線画像診断科 松本 茂

1. 任務、役割

一般撮影装置、マンモグラフィ撮影装置、X線TV装置、CT装置、MRI装置、超音波装置、骨密度測定装置を有し、外来、入院、健診の検査に携わっています。

2. 体制 30名

職種

診療放射線技師	常勤25名 非常勤1名
事務	非常勤4名

3. 概要、特徴、特色

(1) 特徴

各診療科から依頼される各種検査および健診を中心に業務を行っています。画像を提供するだけでなく、診療放射線技師として医師による画像診断の補助に積極的に関わることを目指し、CT、超音波検査、上下消化管検査では技師コメントを読影レポートに記載しています。また、画像診断の結果が確実に診療に活かされるよう放射線技師が読影レポートの内容と受診状況を確認し、必要に応じて主治医に報告するフォロー体制を確立し、毎日の業務としています。

(2) 技師取得認定

認定・資格	人数
放射線管理士	4名
放射線機器管理士	2名
検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	5名
超音波検査士（消化器）	1名
超音波検査士（体表臓器）	1名
乳腺超音波検査認定技師	2名
胃がん検診専門技師	1名
胃がんX線検診技術部門B資格	2名
胃がんX線検診読影部門B資格	2名
X線CT認定技師	3名

(3) 施設取得認定

医療被ばく低減施設認定

マンモグラフィ検診施設画像

(4) 実績 2021年1月～2021年12月

検査名	検査数
一般撮影	43,253
ポータブル撮影	10,803
乳房X線撮影	2,272
骨塩定量測定	1,521
CT	17,738
MRI	7,410
X線TV	2,430
血管造影	511
超音波	5,695

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 放射線画像診断科症例発表会をはじめモダリティごとの症例検討会を開催し、読影知識向上に取り組んでいきます。
- (2) 各検査の読影フォローを継続的にを行い検査結果が確実に診療に活かされるように取り組んでいきます。
- (3) 医療被ばく低減認定施設として、医療被ばくの適正化、病院職員への教育、医療被ばく相談に取り組んでいきます。

リハビリテーション技術科

科長 吉田知行

1. 任務、役割

- (1) 病棟及び外来におけるリハビリテーションの機能と役割

医師の指示のもと理学療法・作業療法・言語療法・摂食機能療法・口腔ケアを実施し、患者様、ご家族様を中心に、医師、コ・メディカル、ケアマネージャーなどと協力し、社会復帰を目指します。

①回復期病棟

急性期治療が終了した回復期の患者様に対しリハビリテーションを実施します。質の高い生活が行えるよう、その方にあったリハビリテーションを提供します。

②整形外科病棟

入院直後より退院後の生活を想定し、退院後も獲得した能力が維持できるようリハビリテーションを提供します。

③内科病棟

急性期の治療中及び治療後の患者様に対しリハビリテーションを実施します。廃用症候群などの二次的合併症の予防を行います。

④外科病棟

手術前後の患者様に対しリハビリテーションを実施します。術前呼吸リハや術後の廃用症候群などの二次的合併症の予防など行います。

⑤緩和ケア病棟

患者様・ご家族様の希望をかなえられるようリハビリテーションを提供します。

⑥外来

在宅生活を送る上での疑問や工夫などを常に確認しながらリハビリテーションを提供します。

2. 体制62名 (2022年3月末日現在)

理学療法士 30名 作業療法士 21名

言語聴覚士 8名 歯科衛生士 2名 事務 1名

3. 活動と実績等

①一般病棟

- ・リハビリ介入率 53.5%
- ・入院3日以内介入率 76.8%
- ・入院7日以内介入率 95.1%

②回復期リハビリテーション病棟

- ・実績指数 50.1
- ・患者一人当たり1日提供単位数 5.7単位

食養科

科長 廣澤教子

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

臨床実習指導者講習会へ参加しています。

1. 任務、役割

食を通して「身も心も養う」という理念に基づき、入院患者様へ安心・安全な食事提供を行うと共に、食生活相談やチーム医療の中で患者様の栄養管理のための役割を發揮しています。外来患者様へは個別食生活相談や保健指導、各種教室などを行い、地域では在宅食生活相談や健康班会・料理教室、各世代ステージに合わせた食生活支援等、各種教室を行っています。また、地域の院所と栄養の情報を共有できるよう栄養情報提供書の作成など、地域包括ケアの取り組みも行っています。

2. 体制 53名

職種

管理栄養士	19名（うち非常勤職員4名）
栄養士	1名
調理師	16名（うち非常勤職員3名）
非常勤調理員	16名
非常勤事務	1名

3. 概要、特徴、特色

(1) 実績

外来食事相談件数	3,530件（月平均294件）
入院食事相談件数	2,298件（月平均192件）
集団食事相談件数	32（月平均2.7件）
在宅食事相談件数	1件
特定保健指導件数	165件
入院患者食数	245,463食（月平均20,455食）
選択メニュー数	23,812食（月平均1,984食）
特別食加算の割合	月平均43.1%
1食あたり食単価	月平均296円

(2) 活動内容

- ① NST 回診 週1回
- ② 褥瘡回診 週1回
- ③ 緩和回診 週1回
- ④ アレルギー外来 週3回
- ⑤ 乳児健診 週1回
- ⑥ 禁煙外来 週1回
- ⑦ 糖尿病集団指導外来（はじめ外来） 週1回
- ⑧ 巣ごもりカフェ（産婦のサポート） 月1回
- ⑨ 各種教室（肝臓病・呼吸器・介護者等）

(3) 給食システム

安心、安全な食事を提供するために、ニュークックチルシステムを導入し、IH 再加熱配膳カートを使用して食事を提供しています。

増進を目的とした取組みのことで、一定の項目を満たした場合に認定されるお店です。

4. レストラン虹の森

病院直営のレストランとして、外来患者様・組合員さん・職員等への食事・軽食の提供や、お惣菜・お弁当等の販売を行っています。職員への福利厚生の一環としては、夜勤者・当直者への夕食の提供も行っています。また、『埼玉県健康づくり協力店（注1）』として、地域の健康づくりも担っています。

営業時間 7:30～15:00

※コロナの影響により、一時期休業させていただきました。

(1) 体制 14名

職種

栄養士	1名（左記栄養士が兼務）
調理師	1名（左記調理師が兼務）
非常勤職員	11名

(2) 運営会議

①体制 7名（うち組合員3名）

②年間開催数 12回（毎週第3火曜日）

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) さらに安心・安全でおいしい食事が提供できるよう、嗜好調査やミールラウンドなどで患者様のニーズをつかみ、献立に反映させていきます。
- (2) 新厨房と仮設厨房の稼働に向けて、人員体制や献立の整備を行います。
- (3) 加算件数や食生活相談件数を増やす一方で、無駄をなくして給食材料費を削減し、経営に貢献します。
- (4) 多職種介入による栄養アセスメントから早期介入を行うことで絶食期間を減らし、低栄養状態のリスクの改善と、退院支援までかかわっていきます。
- (5) 新入職員、経験年数の少ない職員に対して、教育訓練を進め、民医連の職員として力を発揮できるようにします。
- (6) 虹の森長期休業前の年として、ご利用くださった方々への感謝の気持ちを込めたお楽しみイベントを行います。

（注1）『埼玉県健康づくり協力店』とは、埼玉県が管理する健康

ME 科

科長 岡本雪子

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

演題名

内視鏡領域の新たな業務を始めて

1. 任務、役割

(1) 安心して使用できる医療機器の管理をします

医療機器の専門職として点検・修理等、ME 機器管理を通して安全性、信頼性の高い医療機器の提供をします。

(2) 専門職としてのスキル向上に努め、チーム医療の一員として力を発揮します。

(3) 医療機器に関する事故ゼロを目指します

予防保全やスタッフへの教育により医療機器に関連の事故を未然に防ぎ、機器関連の事故ゼロを目指します。

(4) 外来維持透析だけでなく CRRT、アフェレシス療法などを行ない、24時間体制で患者の命を守ります。

(5) 在宅療養をされる患者様へ支援します

在宅療養される患者様やご家族へ装置の使用方法的説明を行い安心して療養生活を送れるよう支援します。

2. 体制 14名 (2022年3月末日現在)

職種

臨床工学技士 14名

＜専門資格＞	人数
透析技術認定士	4名
透析技能2級	1名
3学会合同呼吸療法認定士	3名
第2種 ME 技術者	10名
医療機器情報コミュニケーター (MDIC)	1名

3. 活動と実績等

2021年度 ME 科月報

	2021年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
ME による修理件数	8	12	11	15	25	14	6	11	15	10	11	7	145
メーカーによる修理件数	6	10	13	7	8	7	6	6	8	1	1	4	77
職員の不注意による機器破損件数	2	1	0	0	0	0	1	0	2	0	0	1	7
装置の不具合による事故件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人工呼吸器 (NPPV 含む) 貸出件数	19	34	20	23	27	25	9	18	16	20	14	21	246
HOT 指導件数	9	13	11	7	8	9	4	12	13	7	7	9	109
CPAP 指導件数	0	3	2	3	2	1	1	1	0	1	0	0	14
在宅人工呼吸器指導件数	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3
その他 ME 機器指導件数	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3
ペースメーカ新規導入件数	1	7	3	0	0	0	1	0	0	1	0	0	13
ペースメーカ交換件数	0	1	1	3	1	3	2	4	1	0	0	3	19
自己血回収装置操作件数	0	0	0	3	0	1	1	0	0	1	1	1	8
神経モニタリング操作件数	4	4	6	4	4	4	2	2	4	5	4	6	49

環境管理課

課長 小野秀敏

1. 任務、役割

- (1) 院内の施設設備管理、警備業務、清掃業務、バス運行管理業務を各委託業者と協力しながら行っています。
- (2) 主な資格：ボイラー技士1級・2級、エネルギー管理員、危険物取扱者（乙4類）、大気関係公害防止主任者・水質関係公害防止主任者・高圧ガス製造保安責任者（液化酸素）甲種防火管理者、甲種防災管理者、建築物環境衛生管理技術者（ビル管理士）、第2種電気工事士。

2. 体制3名（2022年3月末日現在）

職種

臨床工学技士 1名
事務総合職 1名
ボイラー技士 1名

3. 活動と実績等

エネルギー使用量		前年比
電気	5,452,824kwh	101.9%
ガス	506,177m ³	98.1%
水	60,060m ³	97.4%
CO ₂ 排出量	3,783t	101.1%

- (1) 老朽化した施設設備の更新計画の立案と実施します。
- (2) エネルギー供給会社の検討、クリーンエネルギーの検討による環境負荷軽減します。
- (3) 非常災害マニュアル、BCPマニュアルの改訂等、災害対策を強化し、災害に強い病院づくりをすすめます。

医局事務課

部責主任 藤元純司

1. 任務、役割

医局長を補佐し、医局運営課題を推進するため他職種と協力してよりよい医療を提供できるよう支援しています。初期臨床研修医および後期研修医（専攻医）の対応、プログラムの管理と運営を行っています。

2. 体制6名（2022年3月末日現在）

職種

事務総合職 5名
非常勤職員 1名

3. 活動と実績等

- (1) 医局目標に対して、医局運営委員会や月例医局会議で進捗確認を行い、達成に向けて取り組みました。
- (2) 初期研修医、専攻医、既卒医師、大学派遣などの非常勤医師に対し、医局のオリエンテーション、診療支援（電子カルテ操作説明）を行いました。
- (3) 初期研修委員会・専門研修委員会のメンバーを中心に研修全体の管理を行い、研修修了に向けた支援（研修システムへの登録・確認）を行いました。
- (4) 基幹病院、関連病院等の更新申請や年次報告の作成を行いました。
- (5) 後継者の確保・育成に対して、初期研修医8名、専攻医3名（連携含む）の入職が決まりました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 医局を中心に病院全体で後継者の確保・育成に取り組みます。全職員が専門研修プログラムへの理解を深めてもらえるよう、医局事務の役割を発揮します。
- (2) 初期研修医、専攻医や既卒医師に対してのオリエンテーションやレクチャーを計画的に行うような仕組みを構築します。また他職種と定期的に情報共有ができるシステムを検討します。
- (3) 医師の働き方改革に向けて、検討を進めます。
- (4) 医療機能評価を通して、医療の質向上を目指します。

入院医事課

部責主任 吉岡洋輝

1. 任務、役割

病院の医療収入の半分以上を入院診療で占める中、入院で行われる医療行為を正確に、かつ漏れなくお金に変える事は病院の経営にも大きく関わってきます。

私たち入院医事課では、入院患者の会計業務、保険請求業務をはじめ、病棟運営のためのデータ作成・分析といった多岐にわたる業務を担い、医師・看護師が治療・看護に集中できる環境をつくり、患者様への質の高い医療の提供へつなげていきたいと考えています。

2. 体制14名（2022年3月末日現在）

職種

事務総合職	7名
事務スタッフ	1名
非常勤職員	6名

3. 活動と実績等

(1) 入院医事課の病院での役割

- ①入院患者が行われる医療行為をしっかりと収入につなげること。
- ②医療の質や接遇の質を維持するために国家資格を持つ医師をはじめとした集団をマネジメントすること。
- ③データをもとに各病棟の課題を洗い出し改善に向けた提案を行うこと。

(2) 活動

- ①入院患者の早期退院の促進
- ②加算算定率向上に向けた取り組み
(救急医療管理加算、入退院支援加算等)
- ③職員が働きやすい職場づくり
(超勤削減、有給休暇の取得推進)
- ④事務返戻・減点件数削減に向けた取り組み

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 頼られる事務の育成
- (2) 分析・発信力の強化（ツール・データの活用）
- (3) マネジメント力の強化（病棟運営・他職種連携）
- (4) 医療の質の分析・課題発見・提起。
- (5) チーム医療への役割発揮（ファシリテーション能力）
- (6) 2病院化に向けた準備

外来医事課

課長 田中紗代

1. 任務、役割

- (1) 急性期病院として機能発揮するため外来診療における課題抽出を行い、患者・病院職員にとって利用しやすい、働きやすい環境を整備します。
- (2) 多職種と連携し質の高いケアを提供できる診療科運営を行います。
- (3) 医師・看護師および関連部門と連携し、予算達成に向けた診療科マネジメントを行います。
- (4) 多職種と連携し正確な保険請求を行います。
- (5) 事務総合職としての職務への理解を深め、お互いに学び合い育ち合う組織作りを目指します。

2. 体制53名（2022年3月末日現在）

職種

事務総合職	14名
事務スタッフ	5名
非常勤職員	26名
当直事務	12名

3. 活動と実績等

外来医事課の病院での役割は、①病院で行われる医療行為をしっかりと収入につなげること、②医療の質や接遇の質を維持するために国家資格を持つ医師をはじめとした集団をマネジメント（会議運営・ファシリテーター）することなどがあります。

(1) 内科・会計チーム（21名：常勤5、スタッフ職員3、非常勤13）

①内科急患外来

- ・内科急患外来患者受け入れ、救急対応、転送時の対応、医師補助業務。

②専門外来

- ・糖尿病、呼吸器、循環器等、内科疾患の専門領域を扱う。
- ・患者受入れ、予約管理、検査説明および案内。
- ・チーム会議の運営。

③内視鏡業務

- ・内視鏡の予約管理、チーム運営。

④会計入力

- ・専門内科、婦人科、中央会計における患者窓口負

担の計算

(2) 外科チーム (23名: 常勤8、スタッフ職員2、非常勤13)

- ①皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、外科、小児科、整形外科、泌尿器科、婦人科
- ・各診療科の受付業務、予約管理、検査説明および案内。
 - ・各診療科会議の運営。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

演題名

外来医事課保険請求業務改善を中心とした働き方改革

医療社会事業課

課長 竹本耕造

1. 任務、役割

(1) 患者・家族が抱える以下のような問題に対し、個別に相談・援助を行います。

- ①患者の療養にかかわる問題
- ②経済的な問題
- ③権利擁護問題
- ④介護問題
- ⑤心理・情緒的問題
- ⑥医療・介護施設の紹介、活用できる社会保障制度の説明・相談援助
- ⑦病気に対する医学的な質問や入院中あるいは生活上の不安の解消等
- ⑧疾病の治療・介護と仕事の両立の問題
- ⑨病院のシステムや職員の対応等についてのご意見や質問の窓口

(2) 必要な社会保障制度の活用につなげ、院内の他職種や地域の様々な機関と連携し、患者が安心して療養・生活できるような支援を行います。

(3) 個別の事例に共通する社会的な問題について、社会に向けて発信・問題提起を行い、制度や行政対応の改善や問題解決ができるよう取り組みます。

2. 体制14名 (2022年3月末日現在)

職種

社会福祉士 14名
精神保健福祉士 2名 (社会福祉士との重複取得)

3. 活動と実績等

①入退院支援

- ・新型コロナウイルス感染症予防のために、家屋調査ができない代わりにEメールを活用し、ご家族やケアマネから自宅の写真を提供いただいて、自宅環境の把握が出来るようにしました。また、リハビリ場面を動画撮影し、ご家族に患者様の身体状況が把握しやすいようにしました。
- ・同じく感染症予防の観点で、療養支援会議の開催も必要最低限にしたので、件数が減少しましたが、WEBの環境が整っている事業所とはオンラインでの療養支援会議を行いました。

②地域連携

- ・緩和ケア病棟地域連携カンファレンスを1年ぶりに開催し、連携施設との意見・情報交換を行いました。
- ・20年度に開始した社会保険労務士と連携しての障害年金相談会を継続しました。職員の知識・経験も向上し、社労士に頼らずに障害年金受給に繋がった事例も生まれました。

③患者の受療権を守る取り組み

- ・新型コロナウイルス関連での生活問題についても対応できるよう、国や厚労省通知、その他の社会保障・社会資源情報の整理を行い、幅広い対応ができるようにしました。
- ・川口市職員との懇談で国保一部負担金減免制度の必要性を訴えました。
- ・川口社会保障協議会開催の川口困りごと相談会に参加し、主に医療問題についての相談対応をしました。
- ・外国人への対応について主に「難民支援協会」「北関東外国人相談会」等と連携し、当院の無料低額診療事業も活用しながら日本の社会保障制度が利用できない方が医療を受けられるよう対応をしました。
- ・外国人未払医療費補填事業の拡充を求める為に、県議に外国人医療の実態についてのレクチャーを行いました。
- ・外国人の医療問題について3回シリーズで学習会を行い（「難民について」「外国人の医療問題」「在日クルド人がおかれている状況」）他病院の職員にも参加してもらいました。
- ・ホームレスの生活保護申請や無保険者の保険加入、無料低額診療事業の活用を通じて、経済的に困窮している方が受診できるようにしました。
- ・フードバンク・フードドライブの取り組みを活用し、生活困窮者への食料提供と同時に生活問題解決の為の相談支援を行いました。
- ・全日本民医連の「経済的事由による手遅れ死亡事例調査」に協力し、3件の事例について報告しました。
- ・じん肺・アスベスト患者の対応が適切にできるように、建設型アスベスト給付金法について学習し、医師・看護師と外来体制を整備しました。

④自己研鑽の取り組み

- ・東洋大学ライフデザイン学科の吉浦教授を招いての事例検討会を4回開催しました。

2021年度入院患者満足度調査まとめ

21年度の倫理コンサルテーションチーム会議の取り組み

21年度リスクマネージャー会議識別チームの取り組みのまとめ

非正規滞在外国人の医療問題と当院での取り組み～人権擁護と社会的包摂を目指して～

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

演題名

無料低額診療事業と外国人の困窮者のまとめ

地域連携課

課長 伊藤 剛

1. 任務、役割

1. 地域医療機関と協力して、患者様の望む医療を提供します。地域全体でより質の高い継続性のある医療を患者様に提供するために、地域医療機関との連携を強化し、当院と地域の医療機関とをつなぐ役割を果たします。
2. 当院の機能を十分に発揮できるように努めます。私達は地域医療機関や患者様からの依頼・問い合わせへの対応能力を強化し、外来・入院・救急医療に貢献し、地域に選ばれる病院を目指します。
3. 誇れる医療活動を伝えます。
当院の医療活動を地域に伝え、誰もが安心して利用できる病院情報の発信を行います。
4. 患者様の医療、健康を地域全体で守るために、安心してかかる地域の医療機関との信頼関係を構築するお手伝いをします。
5. 訪問活動・連携会議を通じて、地域医療機関と『顔の見えるネットワーク』を構築します。

2. 体制30名（2022年3月末日現在）

職種

事務総合職	6名
事務スタッフ	3名
非常勤職員	21名

3. 活動と実績等

- (1) 地域連携チーム（5名：常勤3、スタッフ職員1、非常勤1）
1. 地域連携（院内業務）
 - ①地域医療機関から紹介される患者様の依頼・ニーズに応えるべく、受診・入院・検査において各職種と連携し、迅速かつ安心と満足の医療が提供できるように調整を図る。
 - ②紹介患者様に関する診療情報提供書や報告書の管理を行い、紹介元医療機関へ迅速かつ確かな情報提供を行う。
 - ③当院で完結できない医療に関して、安心して治療が継続できるように専門病院への受診調整や、安定した患者様へ逆紹介をスムーズに進める。
 - ④開業医名簿アクセスを用いて、地域医療機関の情報

をタイムリーに集積・更新し、全職員へ情報共有できるようにする。

- ⑤紹介率（数）・逆紹介率（数）を管理・分析し、当院の機能・医療水準を図る指標とし、今後の戦略を提案する。
2. 地域連携（院外連携）
 - ①開放型病床登録医との「共同指導」の運営管理を行い、新規登録医の拡大を図る。
 - ②地域医療懇談会の運営・事務局を行う。
 - ③地域医療機関へ、書類やデータなどの定期訪問を通じて、コミュニケーションを向上し、信頼関係の構築を図る。
 - ④広報活動を通し、当院の診療体制や医療活動・採用薬の変更を知らせる。
 - ⑤病病連携の強化の為に、近隣病院の地域連携の会や、地域連携クリニカルパスの協議会へ参加する。
3. 患者様へのサービス
 - ①当院の機能だけでなく、地域医療機関の情報を提供し、患者様の選択肢・自己決定できる支援を行う。
 - ②休診・時間外対応やベッド満床時、患者様の病状やニーズに沿った地域の医療機関を案内する。
 - ③患者様の受療権を守り、通いやすく治療中断しない医療サービスを提供する。
- (2) 受付チーム（13名：常勤2、スタッフ職員1、非常勤11）
 - ①初診再診の受付、保険証確認、見舞い客の案内、文書申込み、各種お問い合わせ等
 - ②総合案内業務
 - ③紹介専用窓口
 - ④収納業務
- (3) 入院受付チーム（4名：常勤1、スタッフ職員1、非常勤2）
 - ①予約入院業務
 - ②病床運営に関係するデータの管理や分析、地域への発信
 - ③埼玉県広域災害救急医療情報システムへの発信。夕方の各病棟の空床状況の発信
- (4) 電話交換チーム（7名：常勤0、スタッフ職員0、非常勤7）
 - ①代表電話交換
 - ②各診療科電話予約、検査予約

システム管理課

課長 大野弘文

1. 任務、役割

- (1) 情報システムの適切な運用を行います。
- (2) 医療の安全性に寄与し、診断治療をバックアップできる情報システムを提供しています。
- (3) 医療経営情報の把握できるシステムを開発し、医療の質の向上に貢献します。
- (4) 資質の向上に努め、法令遵守をすすめます。

2. 体制 3名

職種

事務総合職 2名 うち1名医療情報技師
管理栄養士 1名

3. 概要、特徴、特色

(1) 実績

①10月に現行電子カルテを延長するためにサーバー更新を行いました。これにより2023年8月に予定している次期電子カルテ更新まで安定して使用できる環境となりました。

②11月に次期建物の通信インフラ整備を先行して電話環境の更新を行いました。

③3月に放射線科レポートシステム更新の支援を行いました。

(2) 電子カルテ委員会

電子カルテ委員会と連携し、電子カルテ更新の事務局機能を担っています。

4. 学術・研究、講演、研究会等の記録

(1) 外部研修

- ①電子カルテユーザーフォーラム
- ②オンラインセミナー 診療報酬改定について

5. 今後の展望・次年度に向けて

2022年度は電子カルテ更新、通信インフラ整備など具体的な作業を予定しています。システム管理課だけで完結できる内容ではないため、関係各部署と連携しながら作業をすすめていきます。

医師アシスト課

課長 菅原千明

1. 任務、役割

医師が専門的な知識・技能を生かして患者に安全・安心な医療を提供するためには、各職種の適切な業務分担と連携が必要です。医師アシスト課では医師事務作業補助者が25名在籍し、医師の事務作業を支援することによって医師が診療に専念できる環境を提供しています。

2. 体制25名（2022年3月末日現在）

職種

事務 5名 常勤
事務 20名 非常勤

3. 活動と実績等

1. 医師からの各種依頼・相談に応えられる体制を構築しています。

内科、整形外科の診療支援や診察陪席での代行入力等により、診療中の医師の依頼に応えられる医師事務作業補助者の配置を行いました。

2. チーム医療への役割を担っています。

検査・手術オーダーの手配や実施確認、クリニカルパスの適用、書類やデーター準備などを中心に、迅速な業務対応に努めました。

3. 学会・研究のための資料作成を行っています。

再生医療や人工関節手術の症例入力、手術台帳作成等主に外科分野の症例データーの入力を行っています。データーは医師の学会発表、研究、資格申請等に活用されています。

4. 効率的で、精度の高い書類作成支援を行っています。年間約14,000件の診断書や医師サマリー、診療情報提供書の作成支援を行いました。

5. 医師事務作業補助者としての基礎能力である医学的知識と事務処理能力を向上に力を入れています。

短期と長期の育成課題を明確にしたキャリアパス、キャリアラダーをもとに、医師事務作業補助者のスキルアップに取り組みました。毎月の学習会、夕会時の学習会で知識の共有化を図りました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

演題名
専門外来・予約内科における「予約準備業務」廃止に向けた取り組み
医師アシスト課での学習実施とその効果
RPA 導入効果と今後の課題

資材課

課長 小池綾一

1. 任務、役割

病院で使用する、医療材料・伝票類（印刷物）・事務用品などの購買業務を行っています。また、診療報酬改定や高額機器購入時には価格交渉を実施し費用削減を行い、ベンチマーク活用による価格低減を実施しております。

2. 体制 2 名

職種
事務総合職 2 名

3. 活動と実績等

(1) 手術室での物流業務の効率化を行い、運用に関わりました。

①手術件数、手術内訳（緊急・臨時）、外保連にて基準がある術式別技術度と手術指数評価を見える化することができた。

2021年12月実績229件、緊急18件・臨時30件・定期181件

技術度 B 評価 5 件、C 評価46件、D 評価169件、その他 9 件

②診療科別・術式別（Kコード）・収入（麻酔加算）の分析も可能とした。

2021年12月実績 人工関節置換術（股）THA 30件
K0821*2 診療報酬計17,495,600円（麻酔報酬計2,240,400円）

③今後は DPC 係数とのマッチングにより費用対効果を検証している。

(2) 医療消耗品をベンチマークで10品目以上交渉し価格を引き下げました。

①総括24品目実施。年間実績で3,470,004円 / 年の削減効果。

製品切替 7 品目 - 55,786円 × 12 ヶ月 =
- 669,432 / 年

価格低減 17品目 - 233,381円 × 12 ヶ月 =
- 2,800,572 / 年

合計 24品目 - 289,167円 × 12 ヶ月 =
- 3,470,004 / 年

②手袋（ニトリル、他）価格高騰時より - 35,481,888 円 / 年 価格低減。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 教育、研修、研究活動

- ①全日本民医連 医療材料購入担当者 ZOOM 会議に参加

健康まちづくり課

部責主任 工藤昇一

1. 任務、役割

健康まちづくり課は、住民に医療生協の活動を知らせ、「参画」してもらい、全職員や他団体との協働のもと、社会に働きかけ、「地域まるごと健康づくり」を目指しています。

2. 体制 5名

職種	
事務総合職	3名
管理栄養士	1名
非常勤職員	1名

3. 地域担当

南部Aブロック (10支部)	木曽呂・東内野、神根東、道合・神戸、根岸、源左衛門、芝北、柳崎、芝南、伊刈・芝、芝西
南部Bブロック (7支部)	差間、戸塚中央、戸塚南、東川口、安行、安行慈林、新郷
東部地区 (11支部)	草加、八潮、三郷、吉川、越谷、松伏、庄和、春日部中央、春日部北、春日部東、春日部南

4. 概要、特徴、特色

- (1) フレイル予防、認知症予防の取組みを地域に広げ「高齢者にやさしいまち」をつくれます。
- (2) 暮らしの中で発生する「困った」へのアプローチを行う為に、「(県南地域版) こまりと対応安心ネットワークシステム」を具体化します。
- (3) 建設の取組みを、組合員・職員とともに、多くの住民に知らせ「医療生協の魅力ある事業と活動」に参加してもらいます。

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 活動の担い手を増やし、元気な支部をつくれます。
- (2) 建設と事業を通じて地域に医療生協を広げます。
- (3) 埼玉協同病院の職員として、他部門や他事業所と共に「仕事の見える化」を互いに行いながら、日常業務の中での連携を進めて行きます。

総務課

課長 我妻真巳子

1. 任務、役割

(1) 総務課は、人事業務・福利厚生・経理・庶務・業務委託など、職員が働くために必要な環境や制度についてサポートしています。

①人事業務 職員の募集、契約実務（入職オリエンテーション）履歴書や免許証、職員名簿の管理を行っています。

給与関係では就労システムについて、様々な問い合わせに対応しています。

②庶務 院内の会議室やパソコンなどの貸出用物品管理、郵便物や宅配物の受付と仕分け、慶弔業務、夜勤勤務者食の手配など。

③福利厚生では、制服、看護師寮、保育所利用案内、職員駐車場調整、共済会、有給や特別休暇等の対応を行っています。

④経理業務、入出金管理、出資金集計。

⑤業務委託 売店、床屋、病室のテレビ、院内公衆電話、自動販売機、院内鑑賞用植物（エコロジーガーデン）、絵画展示物など

(2) 職員にとって相談や確認がしやすく、広範な守備範囲と気軽さを目指してきました。職員寮における相談、健康保険の加入相談や手続き、出資金、落とし物の問い合わせなど様々な用件で窓口を訪れます。

(3) 患者さんが使用する院内の公衆電話、病室のテレビ、院内床屋さん、売店や自動販売機、観賞用植物（エコロジーガーデン）の窓口を行っています。

2. 体制 6名

職種

事務総合職	3名
事務スタッフ	1名
非常勤職員	2名

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

①病院建設に向けての準備を始めました。

- ・職員駐車場の整備
- ・更衣室の拡大と環境面での改善

②超過勤務と有給休暇の管理が各部門でできるよう支援してきました。

③働くもののための法令や規則を学び、職員へ正しい情報を伝達するよう努めてきました。

・総務課発行の「通船堀」を発行してきました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

病院のリニューアルに向けて2病院の1総務課としての在り方について検討をすすめます。

(1) 職員・組合員・業者・来客等の動線や関連する業務について運用や仕組みづくりを行います。

(2) 職員のマスタの一元管理ができるよう準備します。

(3) 他部門と連携し、職員が働きやすいと思えるよう、よりよい病院をつくります。

つくし保育所

主任 丸岡京子

1. 任務、役割

医療生協さいたまに勤務する職員のお子様を保育しています。産休明けから2歳児までを中心に0歳、1歳、2歳以上の3つのクラスに分け保育を行っています。夜間、休日、臨時保育、病児・病後児保育も行っています。よく遊び、よく食べ、よく眠る、を3本柱に心身ともに健やかに元気に過ごせる子どもを目指しています。

2. 体制 18名

職種

保育士	14名（うち常勤職員4名）
保育助手	3名
調理師	1名

3. 概要、特徴、特色

(1) 保育参観では保育所と家庭との情報交換、そして実際に保育所での様子をみてもらうことで、子どもの成長が共有でき、子どもへの理解がさらに深まりました。また育児教室では育休中の職員を対象に赤ちゃん体操の実践や離乳食の試食などをしていただきました。参加者同士話も弾み、リフレッシュの場、交流の場になりました。

(3) 昨年に引き続きコロナ感染症対策に力を注ぎました。感染症ガイドラインに沿って感染対策を徹底し感染を防ぐことができました。また年間を通して5Sの取り組みを行ったことで職員の安全への意識が高まり、安全な環境、安心な保育につなげることができました。

(4) 既存の離乳食の進め方（アレルギーが出やすい食品）を見直し、ガイドラインに沿った離乳食を提供しました。保護者や職員間で連携を図り安全に進めることができました。

(5) 保育士の資質向上を図るため外部研修や部内で子育てやコミュニケーションについての学習会を実施しました。

保育や職員間のコミュニケーションに役立てました。

(6) 実績

①在籍児数：23人

②臨時保育児実数：42人

（年間延べ数674人、月平均56人）

③夜間保育児実数：18人

（年間延べ数263人、月平均22人）

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 地域や職員のニーズに合った子育て支援を目指します。
- (2) 専門職としての力量アップを目指します。
- (3) 安全対策、感染症対策を強化して子どもの安全を守ります

